がんばろう
末崎！
津波なんかに
負けない！

館報まっさき

第２７１号
平成２９年６月２０日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話（F 兼）29-2955

末崎の風土散策　（６０）
～大工棟梁「古沢幸作」について～

番匠古沢幸作は常に研修に努め若年時からその調査、技術の習得に手を尽くし、絶えず腕を磨いていた。その資料の１部が残されている。安政４年(1857)に描かれた雛形

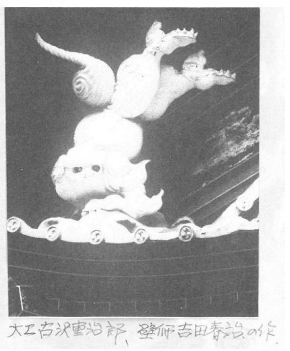
安政４年　　木割書
中所田住　　四足門木割書
角田庄吉郎　　御城下番師
信次 著　　中崎庸随円 著
気仙番匠　幸作 殿　　気仙番匠　幸作 殿

古沢重治郎について

古沢幸作には弟があり、名前は重治郎で学校を出ると兄と共に「気仙大工」の１人として努め、技量を高めて兄に劣らぬ腕の棟梁となり、多くの実績を残している。

古沢重治郎の作品、花泉、老松の千葉高郎邸宅御文庫倉

特にも花泉町老松の千葉高郎宅の御文倉庫は見事な造りで、二軒の垂木は黒磨き、白面取り、屋根瓦も１枚１枚漆喰で作り、巴まで仕上げている。これは最高傑作といわれ、永久に保存を要する文化財とも評されている。また、東妻の２階窓にかけた入母屋造りの屋根がすばらしく、その上には相対する一対の逆立ちした唐獅子が気仙壁師の手で創造されている。これらは棟梁重治郎と共に働いた米崎村沼田の左官吉田春治によるもので、この春治は安政３年(1856)11 月 11 日生まれ、大正 11 年(1922)1 月 10 日逝で行年 68 歳である。なお、蔵の入口の戸前は幾重にも縁取られた額縁で、それに折戸が取り付けられている。室内には土欄間に蔓草の先端が彫刻の様に浮き出形に作られ、更に２匹の二毛猫が鼠を見張っている姿は実にすばらしい。


大工古沢重治郎、壁師吉田春治の作

棟梁古沢重治郎 45 歳の時の作りである。兄幸作には子供がなかったので、弟の重治郎が後継者になっている。

（聖）

戸前の観音開き戸にたたずむ不寝番のネコ

交通安全のモデル地区指定　その２

末崎町交通安全モデル地区活動推進協議会の総会・発会式は６月２日ふるさとセンターにおいて開催された。

総会においては、会則、役員の選出、事業計画、予算、さらに決意表明等が承認された。

発会式は戸田公明大船渡市長、大船渡警察署長代理の西村精一交通課長他多数のご来賓のご臨席をいただき開催された。

平成29年度の交通安全モデル地区指定書が大船渡市交通安全対策協議会長である戸田市長から末崎交通安全モデル地区活動推進協議会長新沼眞作（末崎地区公民館長）に渡された。

新沼会長は、挨拶の中で末崎町内における交通事故発生件数を震災前の５年間と震災後５年間を比較すると、震災前は、震災後の事故については、33人、震災後13件とおよそ３分の１に減少したものの物損事故については、震災前１８０件、震災後２３９件と１・３３倍（59件の増加）となっており心配である。交通事故は一瞬の出来事であり、物損事故の中には、ややもすれば、大事故になったかもしれないものもあるのではと思うと、十分注意を喚起する必要がある。幸いにも震災後は、死亡事故は発生していないが、万が一、発生すると、被害者にとっては、これからの希望多き人生が一瞬にして奪われ、家族にとっても生きる望みすらなくなり、家庭崩壊につながる最悪の事態となってしまう場合も少なくない。また、加害者にとっても、そうした事態を招いたということで生涯、良心の呵責からときほぐされることはなく、経済的負担が重くのしかかる。どちらにとっても、辛い苦しみだけが残る結果となる。それ故に、死亡事故は、決して起こしてはならないし、起こさせてはならない。

事故はちょっとした気のゆるみや交通安全意識の欠如からくるものが多い。町民一人ひとりが交通ルールを順守し安全運転、安全歩行に努めるよう、全町あげて、交通安全意識の高揚を図り、無事故、無違反の住みよい町にしたいのでご支援ご協力をお願いしたいと呼びかけた。

最後にモデル地区活動推進協議会として、実践活動推進にあたっての「決意表明」を熊谷芳弘交通安全協会末崎分会長が読み上げ発会式を閉じた。

細浦朝市２周年記念祝賀会

細浦朝市２周年記念祝賀会は６月17日神坂公民館で開催された。２０１５年５月にはじめた「細浦復興朝市」は、震災でなくなった「商店街の再生、まちに賑わいを取り戻そう」と細浦６地域協議会（現在は細浦地区再生協議会）で決め、立ち上げたものである。

これまで月１回、午前７時から11時までの開催時間で行ってきた。５月で丸２年が経過した。毎回細浦６地域の公民館役員が早朝からテントを張ったり、テーブルや椅子を並べたり会場設営を行ってきた。また、開催日の１週間前より地域住民はじめ会場脇の県道を通行する車両に対しても朝市開催を知らせる幟を立てた。事前準備ということで出店者との連絡調整、地域住民への案内チラシの作成は岩脇晶細浦地区再生協議会長（峰岸地域公民館長）が担当してきた。

これまで細浦復興朝市のリーダーとして引っ張ってこられた岩脇再生協議会長に一番苦労されたことはなんですかと尋ねると、「最初の出店者を募るときである。出店要項を持って盛町や高田町の朝市に行って、そこの出店者に細浦朝市にも来て頂くよう要請したが果たして来てくれるかどうか、不安だった。あとは皆さんが協力してくれたから心配もなかったし苦労もないとのこと。続けられているのは皆さんのおかげ」と話された。

いま、朝市の意義を問い直すと、地域貢献と人々の交流の場としての存在である。よく定年後の高齢者が健康でいられるためには、運動とバランスのいい食事が大切といわれてきたが、それより重きを置くべき事は社会参加である。社会のために貢献すること。多くの人と交流することだと云われる。人は社会で必要だと思われているといきいきと活動するようになる。また、いろいろな人と交流することによって刺激を受けて自分を高める努力をするだけでなく、よりよい人間関係が生まれ、互いに助けたり助けられたりするようになり、安心して暮らせるようになるからである。人は一人では生きられないのである。

★『パソコン教室』（第４回）
日時 7月8日(土) 13時30分～17時
場所 ふるさとセンター２階研修室
内容 簡単な文書作成 ワード、エクセル、広告チラシ作成
講習料 無料

★「草月流生け花」教室開催
日時 7月12日(水) 10時～12時
7月26日(水) 10時～12時
会場 ふるさとセンター２階会議室
主催 末崎地区公民館
講師 鈴木隆子さん
持ち物 花器・花ハサミ・剣山・水切りボール・タオル・ゴミ袋・新聞紙
費用 花材代は実費となりますが講習料は無料です。
連絡先 鈴木隆子さん 電話29－3473
みなさまご自由にご参加下さい。
＊花材の準備がありますので6月30日(金)までに連絡をお願い致します。

★いやしの集い
期日 7月8日(土) 7月22日(土)
時間 13時～16時
会場 ふるさとセンター
※裁縫道具をお持ちください。
「みなさまご自由にご参加下さい」